健康福祉局 資　　料	No. 4

令和４年１月 19 日
課　名　健康福祉局医療機能強化担当
担当者　課長　斉藤
内　線　3086

「高度医療・人材供給拠点（仮称）」の整備に向けた検討状況について

１　要旨・目的

本県の地域医療構想を推進するため，広島都市圏において，全国トップレベルの高度医療を提供する機能や，医療人材を育成・供給する機能を持つ「高度医療・人材供給拠点（仮称）」の整備に向けて検討を進め，本県に必要な医療機能や体制等を示した拠点ビジョンを策定する。

２　現状・背景

本県においては，医師や診療科の偏在，高度医療機器の分散，都市部における医療機能の重複などに課題がある。とりわけ，高度な医療資源が集中する広島都市圏において，医療資源を集約化することにより，県内全域を対象に高い水準の医療を提供するとともに，中山間地域の地域医療を維持する必要がある。

３　概要

(1)　対象者

県民，医療関係者等

(2)　実施内容

広島県地域保健対策協議会 保健医療基本問題検討委員会において，「高度医療・人材供給拠点（仮称）」に必要となる医療機能等について検討を行った。

ア　拠点ビジョン（素案）の構成

目次	内　容
第１章	目指す姿
第２章	現状と課題 【目指す姿の実現に向けた取組の方向性】 ①将来の医療需要を見据えた病床機能分化・連携の促進 ②効率的な医療資源（人的・物的）の配置 ③医療資源が集中する広島都市圏における更なる医療の高度化 ④医師を惹きつける魅力があり，働きやすい医療現場の創出 ⑤医師の地域及び診療科における偏在の解消 ⑥新興・再興感染症への機動的な対応
第３章	目指す姿の実現に向けた考察 １　先進事例調査 ２　広島大学・広島県連携会議における意見
第４章	**課題解決に向けた方針**　➢第３回会議（12/23）において議論 **１　拠点の目指す姿・期待される役割** **２　拠点に求められる高度医療機能** **３　拠点に求められる人材育成・供給機能** **４　今後の検討事項**

イ　高度・医療人材供給拠点（仮称）に期待される役割・機能（案）

目指す姿	(1) 高い水準の医療を県民に提供できる病院 (2) 地域医療の持続的な確保に貢献できる病院
期待される役割	(1) 高度・急性期医療を担う基幹病院として，救急・小児・周産期・災害医療・感染症への対応など，県民の医療需要に応える。 (2) 広島都市圏を中心とした医療機能の分化・連携により，医療資源や様々な症例を集積することで，県民に高度な医療を提供する。 (3) 地域において核となる拠点病院への医療人材の供給・循環の仕組みを構築することにより，中山間地域の医療を守り，持続的な医療提供体制を確保する。
高度医療機能	**○救急医療（救命救急センター）** ・ＥＲ機能の充実により応需率の高い救急医療体制を確保 ・外傷センターとの一体的な整備 **○小児・周産期医療（小児救命救急センター，周産期母子医療センター）** ・ＰＩＣＵの整備，１次から３次まで幅広い小児救急医療体制を整備 ・生殖医療・周産期医療体制の充実（大学との役割分担により周産期医療を強化） **○がん（がん治療センター）** ・標準的治療の強化，ハイボリュームセンターとしての機能を充実 ・がん薬物療法や放射線治療などを行う臓器横断的ユニットの創出 **○新興・再興感染症への対応** ・柔軟な病床運用による機動的な対応 **○その他政策医療への対応** ・精神疾患（児童精神科病床整備），災害医療（十分なスペースや受水槽確保）等
人材育成・供給機能（地域医療支援）	**○キャリア支援センター**（地域拠点への人材供給機能，医師のキャリア形成支援） **○地域の中規模病院との連携による総合医育成**（幅広い症例経験と地域で診療） ○遠隔診療による地域医療支援，診療情報の共有　等

ウ　会議における主な意見

項　目	主 な 意 見
高度医療機能	○中国・四国地方を含めた広域エリアでの専門性の高い高度先進医療を提供する必要がある。 ○循環器領域や消化器領域などで専門性が高く，敷居の低い，紹介しやすい他科横断的な医療機関が望まれる。 ○小児科専門医の集約化により，新たな拠点への小児専門部門の併設や，小児救命救急センターを設置する必要がある。 ○HIPRAC を拠点における放射線治療の一部門として発展的に統合する必要があるのではないか。 ○粒子線治療装置については，維持コストも含めて巨額のコストが必要となること，また国内では供給過剰傾向のため導入には慎重に検討する必要がある。 ○新しい拠点には短時間勤務者の積極的な活用などにより充分なスタッフを確保し，県全体の災害支援の拠点としての機能を発揮することが求められる。 ○民間病院の立場からは，ＥＲだけでなく，脳神経疾患や循環器疾患などについても高度な医療を提供するバックアップ施設があると良い。

項　目	主 な 意 見
人材育成・ 供給機能 (地域医療支援)	○広島大学だけでなく，広島都市圏の他の基幹病院との役割分担も考慮し，全国公募制度により医師を確保する必要がある。 ○拠点がＵターン医師の受け皿となり医師を集約した上で，周辺施設との連携による派遣の仕組みを構築する必要がある。 ○研修医や医学部生を供給できる医育機関は県内には広島大学にしかないことから，新しい拠点と大学とは単なる連携ではなく，一体的に運営できるようにした方が良い。 ○中山間地域への医師派遣については，ドクターバンク事業やふるさと枠医師，自治医大卒業医師の配置調整などを総括した形の組織ができると県において中心的な役割を担うことができるのではないか。 ○へき地に勤務することで，医師としてのスキルアップやキャリアアップを図りつつ人材がローテーションされる仕組みが出来ると良い。 ○2024 年から開始される医師の働き方改革による時間外労働規制を見据え，女性医師の多様な働き方を認めていくことが重要である。
その他	○現存の病院の移転･廃止を伴うものであれば，代替措置の検討を含めて職員及び地域住民・地域の医療機関の合意を先に得ておく必要がある。 ○拠点の整備に向けて，広島市内の基幹病院相互の役割分担をどのようにしていくのかを考える必要がある。 ○全国の同様の事例を分析し失敗事例に学ぶとともに，関係機関や関係職種が受ける影響評価を事前に行うことで，円滑かつ効果的に進められるのではないか。 ○広島都市圏には 2045 年にも 100 万人を超える人口を有することが見込まれており，ある程度の規模の基幹病院が並立する必要があるのではないか。 ○新拠点では，救急救命士や医療事務員など多職種が連携し，医師不足をカバーすることで働きやすい職場作りを進める必要があるのではないか。 ○医師だけでなく，看護師や薬剤師などの人材供給についても拠点の機能として検討して欲しい。

エ　今後の検討事項

○　広島都市圏を中心とする公立・公的医療機関等との機能分化・連携のあり方について，関係医療機関との協議を継続して行う。

○　上記の協議を踏まえた上で，拠点に必要な病床規模，整備場所，運営主体等についても，今後検討を行う。

(3)　スケジュール

時　期	内　容
令和４年 １月下旬	➢拠点に求められる医療機能の検討 ・県民からの意見募集（１月 19 日～２月中旬）
～３月中旬	➢関係医療機関との機能分化・連携に向けた協議 ・拠点との役割分担の整理
３月末頃	➢第４回地対協保健医療基本問題検討委員会 ・拠点ビジョンの提言